

令和7年度小平市立学園東小学校～「全国学力・学習状況調査」結果概要～

1 調査目的・対象

児童・生徒の学力や学習状況を把握・分析し、成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、今後の児童・生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てるための調査です。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等、また、知識・技能を実生活の様々な場面で活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関することを児童が答える調査です。

(2) 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関することを児童が答える調査です。

3 各教科の調査結果の分析

【国語】

状況の分析

課題

全体の平均正答率は東京都を1ポイント下回り、全国を2.2ポイント上回った。全14問中6問が東京都と全国を上回った。特に、話し手の考えと比較しながら自分の考えをまとめることができるかどうかをみる問題は、正答率が東京都と全国より高い傾向にあった。

全14問中4問が東京都と全国を下回った。正答率の低い問題は、「目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討することができるかをみる」問題や、「目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかをみる」問題などがある。

①「目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討することができるかをみる」問題では、話す内容と資料との整合性を確かめたり、適切な時間や機会での資料の提示の仕方を学んだり、表現を工夫しながら伝え合ったりする経験が必要である。

②「目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかをみる」問題では、文章のどこを詳しく、どこを簡単に書けば効果的かを検討したり、必要な語句や文を抜き出したり、図やグラフを用いて書いたりすることの指導が必要である。

学校で取り組む具体的な改善策

- ①国語や総合的な学習の時間等の中で、言語活動の充実を図る。具体的には、「意見や提案など自分の考えを話したり、それらを聞いたりする活動」、「インタビューなどをして必要な情報を集めたり、それらを発表したりする活動」、「それぞれの立場から考えを伝えるなどして話し合う活動」に取り組む。また、それらの活動の中で、ある事柄を説明するために材料を複数のまとまりに分けたり、異なる内容の材料を総合してどのようなことが言えるのかを明確にしたりする力を養う。
 - ②国語の学習において、考えの形成、記述についての学習をする際に、文末の表現に注意しながら事実と感想、意見とを明確に区別して書いたり、引用した文章や図表等と本文との関連性を示したりと、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する指導を行う。
- 引き続き、読書活動に力を入れ、文字や文章に慣れ親しむ環境をつくる。

【算数】

状況の分析

課題

全体の平均正答率は、全国を2ポイント上回り、東京都を4ポイント下回った。

東京都と全国を上回った問題の内、ポイントが大きい問題は、「台形の意味や性質について理解しているかどうかをみる」問題、「棒グラフから、項目間の関係を読み取ることができるかどうかをみる」問題、「基本図形に分割することができる図形の面積の求め方を、式や言葉を用いて記述できるかどうかをみる」問題であった。

一方、東京都と全国を下回った問題の内、ポイントが大きい問題は、①「小数の加法について、数の相対的な大きさを用いて、共通する単位を捉えることができるかどうかをみる」問題、②「数直線上で、1つの目盛りに着目し。分数を単位分数の幾つ分として捉えることができるかどうかをみる」問題、③「示された資料から、必要な情報を選び、数量の関係を式に表し、計算することができるかどうかをみる」問題であった。

③④主に「数と計算」の領域においての内容で、小数や分数の基本的な意味や理解について課題がある。理解が不足している学年の学習まで戻り、繰り返しの学習で習得を進める必要がある。

⑤ 資料から必要な情報を取り出し、既習の知識・技能を用いて解決する力を養う必要がある。

これまでも「考えをもつ時間」と「他者と交流し考えを深め、自分の言葉で発表する時間」をもつこと等に取り組んできたが、課題解決には至っていない。今後は、基礎・基本が定着するよう、ノート指導の徹底や学習の流れの統一をすすめていく。また、これまでの取組に加えて、習熟度別の全てのコースにおいて、発展的な内容の問題に取り組む時間を持ち、自分の考えを文章にまとめさせ、解答に必要な考え方について丁寧に解説して理解を深める時間を確保する。

学校で取り組む具体的な改善策

○毎週、木曜日の「ニコ学タイム」を中心に、東京ベーシックドリル等を活用して分からない学年の学習まで遡って基礎基本の定着を図る繰り返しの指導を徹底する。

○図形を扱う授業では、操作活動を多く取り入れる指導を継続するとともに、プログラミング的な思考を育む指導を行う。

○習熟度に合わせて選択肢や情報量の多い発展的な問題を積極的に取り入れ、情報を整理して思考できるよう指導する。

○学習者用端末を含むICT機器の効果的な活用や学習形態の工夫などで、自己の考えと友達の考えを比較したり、既習の学習内容を活用して問題を解いたり、課題解決の方法を話し合ったりする場面を多くつくることでさらに思考力や判断力を向上させる。

【理科】

状況の分析

課題

全体の平均正答率は、東京都を4ポイント、全国を6.9ポイント上回った。

全17問中13問が東京都と全国を上回り、観点の内訳は、「知識・技能」を問う問題が6問、「思考・判断・表現」を問う問題が7問である。

全17問中3問が東京都を、1問が東京都と全国を下回った。正答率の低い問題を順に挙げると①

「アルミニウム、鉄、銅それぞれが電気を通すか、磁石に引きつけられるかを答える」、②「電気を通す物と通さない物を用いた複数の実験について電気を通す回路を選択する」、③「赤玉土の粒の大きさによる水のしみこみ方の違いをまとめたわけについて結果を基に記述する」問題である。

① 「金属の性質を問う」問題については、身の回りにある金属には電気を通す性質があること、また、磁石に引きつけられるのは主に鉄であることを区別して理解する必要がある。

② 「電気を通す回路を選ぶ」問題については、電気をを用いた実験の道具の条件を理解し、回路の作り方について電気が通る実験方法を発想し、表現する力に課題が見られる。

③ 「赤玉土の粒の大きさによる水のしみこみ方の違いに関して記述する」問題については、実験結果を基にしてそれぞれの数値を比較し、必要な言葉を用いて自分の考えを論理的に表現する力を育む必要がある。

学校で取り組む具体的な改善策

- ① 問題解決型の学習を通して、児童に自ら、主体的に学習を進めさせる中で、実験や観察の目的や趣旨を把握させ、学習の過程で正しい知識や技能を身に付けられるようにする。また、単元末に内容を振り返る学習やワークシートの復習問題、動画の視聴等を実施し、知識・技能の確実な定着を図る。
- ② 高学年以上では、問題に対して各自の予想を立てさせ、その予想を全体で共有し、実験方法や観察方法を考える時間を設ける。そのことで、実験や観察の方法を発想し、表現する力を育む。
- ③ 実験や観察の結果を文章や数値を用いたグラフ、表、等で表現させ、全体で共有する。その後、各自が考察したことやまとめたことをノートやワークシートに文章で表現させる。そのことで、問題や予想に正対しながら結果を基にして論理的に考え、表現する力を育成する。

【質問紙】

状況の分析

課題

生活習慣に関する項目の中で、東京都や全国を上回ったものは、「朝食を毎日食べていますか」や「毎日同じくらいの時刻に寝ていますか」、「毎日同じくらいの時刻に起きていますか」であった。また、「人の役に立つ人間になりたいですか」や「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか」という項目についても、前向きな回答をする児童の割合が高いことが分かった。

学習習慣に関する項目の中で、東京都や全国を上回ったものは、「わからないことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することができますか」と「学校の授業以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」であった。「学校が休みの日にどれくらいの時間勉強しますか。」という質問に対して「4時間以上」と回答した児童の割合については、東京都や全国を下回った。

ICT機器を活用した学習状況に関する項目の中で、東京都や全国を大きく上回ったものは、「自分がPC・タブレットなどのICT機器を使って学校のプレゼンテーション（発表のスライド）を作成することができますか」という質問に対して「2時間以上」と回答した児童の割合は、東京都や全国を下回った。

「学校の授業以外に普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、PC・タブレットなどのICT機器を、勉強のために使っていますか」という質問に対して「2時間以上」と回答した児童の割合は、東京都や全国を下回った。

基本的な生活習慣や普段（月曜日から金曜日）の家庭学習習慣の定着が見られたり、社会貢献への関心が高かったりすることが分かった。このような状況を今後も維持できるよう、家庭と学校の連携を密に図る必要がある。課題については、以下に2点挙げる。

①学校が休みの日の勉強時間が2時間未満の児童の割合が、約40%であるという実態が分かった。読書の奨励や繰り返しドリルなどの活用、子どもが興味をもつテーマや日常生活での疑問を掘り下げる自主学習等を行い、休みの日にも一定の学習時間を確保できるよう促す必要がある。

②学校の授業時間においては、PC・タブレットなどのICT機器を用いてプレゼンテーションをしたり、分からないことをすぐに調べたりと、活用できている。一方で、家庭学習でPC・タブレットなどのICT機器を2時間以上使っている児童の割合が、東京都や全国を下回ったことが分かった。このことから、今後は、ICT機器の活用方法を教職員間で共有したり、デジタルドリル等を活用したりするなど、家庭におけるICT機器の効果的な活用を児童に提示していく必要がある。

学校で取り組む具体的な改善策

- ①通常取り組む漢字ドリルや計算ドリルなどの他に、音読や読書、デジタルドリルや自主学習のように、自分で量を選択したり課題を明確化したりして行う方法を紹介し、主体的に取り組ませることで、児童が休日に一定量の家庭学習を行うことができるようにする。また、家庭学習の大切さを学校だよりや啓発資料「家庭学習のすすめ」を通して各家庭に伝え、家庭学習の意義や習慣化する方法、おすすめの学習方法などを紹介していく。
- ②ICT機器の効果的な活用について校内で研究を進めるとともに、様々なソフトの活用方法を教職員間で共有する。日々の授業や特別活動、家庭学習（持ち帰り）等で活用する場を意識的に増やしていく。授業の振り返りは学習者用端末で入力し、児童間で共有する。また、各学年や各教科・領域の活用事例を校内ICT研修を通して共有し、さらなる充実を図る。